

令和 5 年度

学校評価 総括評価表

徳島県立川島高等学校

令和5年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（1）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(1) 中高一貫教育の推進	①中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸長するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。 ②6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○中高一貫教育校として18年が過ぎ、概ね良好な中高一貫教育ができていていると考えられている。しかしながら、生徒の多様化が進んでおり、これまでの教育活動に関する検証結果や、生徒や教員の実態に合う効果的な対策を十分に検討し、学習指導・進路指導・特別活動等の各領域で更なる充実をめざし、中高一貫教育の推進を図りたい。 ○学校行事や部活動等を通して中高生徒の交流ニーズの把握を図る。また、共通テストに対応できる力「思考力・判断力・表現力」を身につけさせるため、中高相互の授業見学や研究授業等でICT機器やグループワーク等を積極的に導入したい。
		①・中高一貫教育推進委員会を定期的に開催し、学校行事の内容を検討し、充実させる。 ・「中高一貫教育を活かした教育活動が行われている。」と思う教員・保護者の割合は、70%以上をめざす。 ・「学校生活に満足している。」生徒の割合は、70%以上をめざす。		①・中高一貫教育推進委員会は年1回の実施となったが、行事等の打合せを各課の中高担当者で行い、充実させることができた。 ・中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は、「ある程度思う」を含めて81.3%、保護者は79.2%で、目標を達成した。 ・生徒の学校生活への満足度は84.7%で、昨年より1.0ポイント増加している。		〈評定〉 A ----- 〈所見〉 令和6年1月実施の6年生対象中高一貫教育アンケートで、川島高校での学校生活、学習内容、進路指導、学校行事に対する満足度はすべて80%以上であった。今後も更に魅力ある中高一貫教育校を目指して様々な方策を考えなければならない。	
		活動計画		活動計画の実施状況		本年度は、8月の中学生体験入学に約250人の中学生と保護者が参加し、授業体験と説明会を通して、本校への関心を深める機会となった。また、11月に行った公開授業も昨年度を大きく上回る参加が有り、本校の教育活動に対する理解を深める機会となった。	
		①・前年度6年生対象の「6年間の学校生活」のアンケート結果を踏まえ、中高連携の学校行事をより充実させる。 ・県立川島中学校オープンスクールでの学校説明会や、県立川島中学校3年生対象説明会での発表内容を十分検討する。 ・中高相互の授業見学、研究授業に対する協議や中高合同の教科会において、授業方法等について検証し、生徒が積極的に授業に参加する授業展開ができるよう授業の工夫改善を図る。		①・令和6年1月実施の6年生対象中高一貫教育アンケート結果を参考に、中高一貫教育推進委員会で中高の学習指導、進路指導や生徒間の交流について協議した。また、「先輩に学ぶ」と題して、2年生が5年生から高校生活の話を聞いたり、質問したりといった形での取り組みや、例年行っているスペシャルアプローチ(SA)、中学生の高校部活動への参加について等、多彩な中高連携について検討した。 ・それぞれの授業力向上にむけ、3回の授業見学週間を設け、授業見学にあたっては、「ICTの活用からの授業改善」や「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」などのテーマを定め見学し、互いに授業についての感想や改善点等を共有した。また中高合同の教科会を学期ごとに実施し、6年間でどのように生徒を育てるか話した。			
		②・新課程における教育課程を教育課程委員会及び教科会、中高一貫教育推進委員会で検討し、編成する。 ・来年度の学力確認テストの実施や授業の展開、クラス編制等の検証をする。		②・令和6年度入学生のエデュケーションについては、教科会及び教育課程検討委員会を開催して検討し、新課程での新しい教育課程を作成した。 ・中高相互の授業見学や中高合同の教科会を実施し、生徒の実情や進捗状況を確認した。 ・定員の発表を受け、令和6年度入学生のクラス編制について、課会や年次会などで検討し、応用クラスの方角性について確認した。			

令和5年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（2）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	①個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。 ②学力向上を図る研修を充実させ、ICTを生かした主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○生徒保護者ともに面談に対する満足度は高いが、学力向上や進路指導の充実を図るため、個別面談や三者面談の充実に一層努め、生徒の実態に合った具体的なアドバイスや課題を与える。また、各教科で家庭学習時間増加のための手立てを考えるとともに、学習方法の指導も行う。 ○スコラ手帳については担任と生徒の間のコミュニケーションの方法の一つとして定着しているが、生徒の学習習慣の改善にいたっておらず、来年度に向けてICTの導入なども検討していきたい。 ○社会の変化に伴い、思考力・判断力・表現力や主体性が評価される入試となり、あわせてコロナ禍でICT活用力が必須となった。これまで以上に教員の指導力の向上と授業改善が必要である。 ○模試分析会や教科会を定期的に実施し、生徒の現状を年次団や各教科担任が分析し、個々の指導改善を行う。 ○読書については、調べ学習や進路に関する図書の利用などを通して、さらに推進する必要がある。
		①・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度70%以上をめざす。 ・手帳（スコラノート）を活用することにより、「学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は、70%以上をめざす。 ・読書の推進に努め、図書館の年間来館者数7,200人以上（中学生含む）をめざす。（一人あたり15回／年）		①・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は92.4%であった。 ・手帳（スコラノート）を活用することにより、「学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は37.9%だった。 ・図書館の年間入館者数は6,623人（1月末現在）で、昨年より388人増加した。図書貸出冊数は2,836冊（1月末現在）で、前年より256冊増加した。一人あたり14回の来館となる。		〈評定〉 B ----- 〈所見〉 三者面談や個人面談に対する肯定的意見が生徒92.4、保護者84.9%となり、生徒、保護者とも面談等のサポート体制には満足できているようである。 生徒の授業に対する満足度は目標の70%以上を達成したが、今年度は生徒用タブレットPCの不具合が発生し思うようにいかない場面が多かった。一方で、教員の電子黒板の利用は定着しつつある。 教科ごとで定期考査や模試の結果の分析を実施することで、教員同士で重点的に指導する分野の共有が図られた。また、6年生の進路指導においては、きめ細かい指導の結果、ほぼすべての生徒が希望の進路実現を果たした。 図書館の貸出冊数や来館者数が昨年より増加した。委員会活動の活性化や授業での利用をさらに呼びかけ、読書への意欲喚起を促す努力を続けたい。	
		②・学力向上検討委員会と連携し、公開授業の機会を設ける。 ・ICTを利用した課題提出やグループ学習、また、既習事項の復習など各教科で工夫し、ICT利用頻度を昨年より10%以上向上させる。 ・生徒の授業に対する満足度70%以上をめざす。 ・国・歴・公・数・理・英において、教科会を年間3回以上実施し、授業改善に取り組む。		②・ICT利用頻度を昨年度より10%以上向上させたと答えた教員の割合は59.1%と半数を超えた。 ・授業が補助プリントやICT機器等を活用するなど工夫されていてわかりやすいと答えた生徒は84.7%であった。 ・習熟度別学習や少人数学習に対する生徒満足度は74.1%であった。 ・国・歴・公・数・理・英において教科会を年間3回実施した。			
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・生徒との常時面談を心がける。 ・「朝の学習の時間」を毎日10分間設定し、基礎学力の定着を図る。 ・毎週月曜の朝、手帳（スコラノート）に週の計画を立てさせる。また、可能な範囲で授業でも活用する。 ・家庭学習時間調査を年6回行う。 ・図書館だよりや展示内容の充実を図るとともに、各教科と連携し、授業における図書館利用の機会を増やし、読書への興味関心を喚起する。 ・長期休暇中にICTを活用した課題を各教科で出題する。		①・個人面談は4月と9月、及び10月の科目登録時を含め3回以上実施できた。また、保護者面談は8月の三者面談に加え随時必要に応じて実施した。 ・朝の学習は全校集会など特別な場合を除き毎日実施できた。4・5年生は、国数英を中心に小テストを行うなどして基礎学力の向上に向けて努力を重ねることができた。6年生は生徒の進路希望に沿った内容をホームルーム単位で実施した。 ・朝の学習ノートや手帳（スコラノート）は、生活の記録、学習内容や時間を担任がチェックした。 ・宿題・週末課題は、提出させて教科担任がチェックした。 ・家庭学習時間調査は実施回数を見直し3回に減らし、結果を職員会議やPTA総会等で報告した。 ・図書館では図書館便りの発行や季節ごとにテーマを設け図書館の利用促進を図るとともに、調べ学習に使える資料や小論文によく出る本の購入や紹介に努めた。また、委員会活動をより活発化させるため、文化祭での企画展示や県立図書館や県教育委員会主催のコンテストなどにも作品を応募し、入賞を果たした。			
		②・学力向上検討委員会と連携し、国・歴・公・数・理・英における学力・学習状況についての目標・方策を設定し、学習支援体制の改善に努める。		②・進研模試の結果を学年で分析した。これらの取り組みを通して授業改善に生かすと共に、教師の意識改革、ノウハウの共有を進めた。			

令和5年度徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（3）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(3) 生徒の能力・適性に応じた進路の実現	①進路指導プログラムの改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。 <						

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	①生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身につけさせる。 ②あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	評価指標		評価指標の達成度	総合評価	○非常に詳細に記述されているので、読むことで内容がよく分かる。他の人に分かってもらうには、このぐらいの記述が望ましい。	○生徒課・各年次団・正副担任の共通理解の元、それぞれの役割を明確にし組織的な連携を図り、効果的な指導を継続して行う必要がある。
		①・全校集会、または指導週間を月1回実施し、基本的生活習慣の確立を中心とした生徒指導の徹底・充実に努める。 ・学校評価アンケートにおける、生活面に関する生徒の達成度80%以上をめざす。		①・年間で全校集会を5回、指導週間を11回実施した。 ・基本的生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は95.1%、保護者は87.3%、教員は96.9%であった。携帯電話・スマートフォン使用時のルールやマナーを理解させる指導に関する肯定的意見は、生徒は95.4%、保護者は85.8%、教員は96.9%であった。服装・頭髪等規程に沿った身だしなみを心がけて生活しているか（適切な指導が行われているか）に関する肯定的意見は、生徒は94.2%、保護者は89.8%、教員は100.0%であった。	〈評定〉 A 〈所見〉 9割近くの生徒は基本的生活習慣、社会のルールの大切さを自覚し生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。 服装頭髪等の継続的指導を要する生徒はごく一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できており全体的に安定している。しかし、登下校時のブレザー着用、女子のスカート丈、ネクタイの着こなし、奇抜な髪型、などについての一部生徒の違反に対しては、継続しての指導が必要である。 友だちや先生等校内に悩み事を相談できる生徒の割合や迅速で丁寧な相談体制を評価する保護者指数は8割を超えている。今後も個に応じた組織的な取り組みを継続していきたい。 適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。9割以上の生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。		
		②・学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教員の達成度80%以上をめざす。		②・学校には悩み等を相談できる教員や友達がいるかに関する生徒の肯定的意見は88.1%であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関する保護者の肯定的意見は86.4%であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は82.5%、教員は93.8%であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は93.6%、保護者は90.7%、教員は100.0%であった。			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①・ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等のあらゆる機会を活用して生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校内外巡視等を適宜実施し、生徒の実態把握とともに生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。 ②・授業態度、身だしなみやスマートフォン等に関する指導について教職員が共通理解し、徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。 ・長期休業中の校外巡視等を、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。 ・交通講話、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室（4年生対象）、健康教育講演会（4年生対象）を年1回以上実施する。 ・スクールカウンセラーや学校外の機関とも必要があれば連携を取り、丁寧な支援を行う。	①・全校集会、年次集会、ホームルーム活動を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて3日間もしくは4日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校内外巡視を実施した。生徒会役員と生活委員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。 ②・「携帯電話・スマートフォン校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いて学業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても自覚を促し、ルールやマナーを守り、よく考えて行動させることにより、携帯電話・スマートフォンに関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。 ・校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。 ・各種講演会を実施した。 ◇阿波吉野川警察署交通課より講師を招いて交通安全講話を実施した(7/19)。 ◇交通マナーへの意識の向上を目的として、阿波吉野川警察署と合同で交通安全運動を実施した(9/29)。 ◇様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的として、阿波吉野川警察署生活安全課から講師を招いて、非行防止教室を実施した(12/21)。 ◇阿波吉野川警察署生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して薬物乱用防止教室を実施した(5/9)。 ・4年生に対して緊急時に備えての心肺蘇生法講習会（12/13・12/15）や夏季休業中に生活習慣改善プロジェクトを全学年で実施した。 ・年に2回悩みごとアンケートを実施し、生徒の把握に努めると同時にスクールカウンセラーへの支援要請など早期対応を図った。		○保護者と関係する複数の教員が連携し、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある生徒が複数いる。外部との連携協力をとり、支援を継続する必要がある。 ○健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。面談等を活用し生徒個人の実情や悩みを聞き出し関わりを続ける努力が必要である。 ○交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守、自転車用ヘルメット着用の推奨、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。 ○SNSは公共の場であることや、その向こう側には善意の人ばかりではないことを意識させ、携帯電話やスマートフォン使用時のルールやマナーを身につけさせることが必要である。 ○校則の見直しを継続的に行うことでその意義を理解させ、主体的に遵守する態度を養うことが必要である。		

令和5年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（5）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価			学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	①人権教育指導計画の推進と「“あわ”人権学習ハンドブック」の活用により、人権問題を解決できる生徒の育成に努める。 ②人権尊重の意識を高めるため、生徒の実態に応じた具体的な取組の展開に努める。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○堀内さんの講演会や人権の日の取り組み等が詳細に記述されていて、とても分かりやすい。	○人権学習ホームルーム活動の主題設定や内容について各年次の状況を考慮し、より一層精選する。 ○評価指標としている、生徒、保護者の意見において、「ある程度思う」から「思う」の割合が増加するような取り組みを目指していく。 ○人権学習ホームルーム活動の展開や資料等について、テーマは生徒の状況に合わせたものを用いるなど、常に状況を把握し精選する。 ○人権学習ホームルーム活動や「人権の日」の放送、学校祭など、人権委員が活躍できる機会を設け、主体的に活動できるよう事前の指導を工夫していく。 ○「人権の日」の放送では、中学校と連携して、引き続き「個別的な視点」や身近な人権、最近の人権問題等について考え、様々なテーマとなるよう内容を工夫する。
		①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。		①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「思う思う」(47.4%)と昨年比8.2ポイント向上した。また「ある程度思う思う」は(41.9%)を合わせると89.3%（昨年比2.1ポイント増）であり、目標を達成することができた。		〈評定〉 A		
		②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。 ・「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、80%以上をめざす。		②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「思う思う」(56.0%)と「ある程度思う思う」(36.7%)を合わせると92.7%（昨年比3.7ポイント増）であり、目標を達成することができた。 ・人権を大切にしている教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「思う思う」(32.2%)と「ある程度思う思う」(54.5%)と合わせると86.7%（昨年比2.1ポイント増）となり、目標を達成することができた。		〈所見〉 人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。 鴨島支援学校との交流は、数年ぶりに11月の学校祭に参加することができ、生徒たちのよい刺激になった。 「人権教育講演会」は、久々の対面開催で実施でき、生徒・教員・保護者一同が堀内さんの音楽と言葉で心一つとれた。心温まる感動的なコンサートだった。 今年度で16年目である「人権の日」の放送は、朝の学習時間を利用し各ホームルームの人権委員が意欲的に取り組めた。Zoom配信にも慣れてきて、担当生徒も積極的に活動し、啓発活動がより充実したという感がある。 夏休みに人権標語や「ほっとH0Tメッセージ」作品を作成することで、生徒は身の回りの人権問題や、周囲の人への感謝の気持ちに気づくことができた。		
		活動計画		活動計画の実施状況				
		①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次や各クラスの実態に応じた学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒が積極的に参加できる授業の改善に努める。 ・各年次で必ず「同和問題」についての学習を取り上げ、同和問題に対する生徒の意識の向上を図る。 ・徳島県人権教育推進方針に追記された「日本人拉致問題」「災害時における人権問題」「性の多様性」についても教材化に努め、「いのちの安全教育」についても「人権の日」の放送等に取り入れる。 ・授業展開・資料に関して近年の新しい人権課題や他校の動向等も考慮し指導内容の改善に努める。 ②・支援学校や他校との交流への積極的な参加を促し、人権意識の高揚を図る。 ・人権新聞は内容の充実を図り、年3回発行する。 ・講演会や「人権の日」の放送等については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。 ・校内外の様々な取組において人権委員がリーダーシップを発揮し活動が活性化するように指導する。 ・人権尊重の精神の涵養を図り、日頃の声かけ、呼びかけに努める。 ・道德教育の観点からも生徒一人一人の「生きる力」の育成に努める。		①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿って人権学習ホームルーム活動が展開できた。 ・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えてできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。 ・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。 ・「人権の日」の放送で「生命の安全教育」にかかわる内容を取り入れた。 ②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。 ・鴨島支援学校との交流について、5月は新型コロナウイルス感染症の影響が残る運動会に参加できなかったが、11月の学校祭には参加ができ、数年ぶりに交流を深めることができた。 ・10月に実施した人権教育講演会は、シンガーソングライターとして活躍されている堀内佳さんをお招きし、「いま・しあわせに生きるために！」というタイトルで人権コンサートを開催した。コロナ禍あけ4年ぶりに生徒・教員・保護者が体育館へ集まっの対面開催で、会場全体が堀内さんの歌声に温かく包まれ、それぞれが想像力をはたらかせながら自分たちの幸せについて考える時間となった。 ・毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。取りあげたテーマは、「バリアフリー」「性暴力」「アイヌの人びと」「障がい者」等の問題を取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。中学生にも放送を担当してもらい、「沖縄戦」「アンネのバラ」等をテーマとして修学旅行や吉野川市人権教育研究大会で学んだことを紹介し、中高連携で同じ人権課題について共に学ぶ機会とした。校内において人権委員がリーダーシップを発揮し、啓発活動が活性化している。 ・各学年・各ホームルームで、年数回の生徒面談を行うとともに、昼休みや放課後には生徒の様子をみて声かけ等を行っている。				

令和 5 年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（6）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	①学校行事、生徒会活動等を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ②部活動のより一層の充実と活性化を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○生徒会役員会や各種委員会を開催し、ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し改善する。 ○生徒会活動がより積極的に行えるよう、定期的な情報交換会やアンケート調査を活用し、生徒の意見を積極的に取りあげ学校行事に活かしていくよう工夫する。 ○生徒主体の活動が行えるよう特別活動課教員と生徒会役員との連絡を密にし学校行事等の事前準備を十分に行う。 ○川島高校の特色を生かした部活動の在り方と並行して中高一貫教育校としての利点を活かす部活動の在り方を考える。 ○コロナ禍収束に伴い、生徒会は積極的に学校行事等を運営できるようになってきたが、一般生徒はまだまだ積極的な参加ができていないように思われるので、今後は一般生徒に対する学校行事への積極的な参加を促し、より充実した学校行事が実施できる方策を考える。
		①・川島中高祭、球技大会などの学校行事で生徒の自主的な取組を促すことにより、生徒の満足度90%以上をめざす。 ・生徒の主体性を促し、学校行事や生徒会活動に積極的に参加するよう適切な指導を行う。		①・川島中高祭、球技大会など、学校行事への生徒の満足度が89.6%となり目標の90%以上は達成できなかった。 ・コロナ禍以前のように生徒は主体的に、学校行事や生徒会活動に積極的に参加はまだまだできていない。		〈評定〉 B	
		②・部活動の入部率90%以上をめざす。 ・各部代表生徒による部活動委員会を年2回開催する。		②・部活動の入部率は93%（男子92%、女子94%）と目標を達成できた。 ・部活動委員会を年2回開催し、部活動の活性化等について話し合うことができた。		〈所見〉 本年度は新型コロナウイルスの影響も少なくなり、コロナ禍以前の学校行事の規模に戻る中で、生徒会は積極的な活動ができた。しかしマスクの着用や黙食等で生活してきた3年間の影響は大きく、一般生徒が積極的な学校行事への参加はまだまだできていないように感じた。	
		活動計画		活動計画の実施状況		部活動の入部率は目標を達成した。複数の部活動に入部している生徒もおり、積極的に部活動に参加していることがうかがえる。少子化が進む中、本校においても今後、生徒数が減少することが想定される。本校の課題を整理し川島高校としてより良い部活動の在り方を考えていきたい。さらには上述した内容も踏まえて中高一貫教育校としての特色を活かす部活動運営を模索したい。	
		①・川島中高祭への積極的参加を促し、意識の高揚を図る。また、生徒会を中心に生徒が主体となって運営できるよう適切な指導を行う。		①・生徒会では役員を中心に、学校祭の計画や実施、あいさつ運動などを行う事ができた。また、教員が適切な方向付けを行うことで生徒が主体的に学校行事が運営できるようになってきた。			
		②・部活動への積極的な参加を促す。また、部員同士で十分に話し合いをさせ、年間活動方針を明確にさせる。 ・各部代表生徒による部活動委員会を通して、部活動間で連携を深めるとともに、問題点を抽出し話し合う。		②・今年度は、昨年度より全体の部活動への入部率は少し低かったが、入部した生徒は年間を通じて充実した活動を行った。 ・部活動委員会を通して、各部活動間で連携を深めると共に、より充実した部活動の在り方を話し合った。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	①「新学校版環境 I S O」に取り組むなど環境保全活動に努める。 ②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○アンケートでは、清掃活動や環境美化に対する生徒の意識、ゴミ分別等に対する意識いずれも、昨年よりやや増加した。来年も継続できるように、日々の生活の中での様々な活動を大切にしたい。 年度が変わっても、新たに熱心に活動する生徒が現れるように、様々な活動のなかで、先輩が後輩へ働きかけをするよう促したい。 ○コロナ禍で中止されていたオーストラリアへの海外語学研修を再開し、継続的に海外に目を向けて広い視野と語学力を持った生徒を育てる。
		①・「『新学校版環境 I S O』に取り組む、清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。 ・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。		①・「清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は80.1%で、目標を達成することができた。 ・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答した生徒の割合は88.7%で、目標を達成することができた。		〈評定〉 B	
		②・「外国語の習得や国際理解に努めようとして A L T との授業に積極的に取り組んだ。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。		②・「外国語の習得や国際理解に努めようとして A L T との授業に積極的に取り組んだ。」と思う生徒の割合は72.5%と目標値に届かなかった。		〈所見〉 清掃活動や環境美化、ゴミの分別等について、多くの生徒は熱心に取り組んでいた。また、「レッツクリーン」環境美化活動に参加した生徒は、環境美化への意識がより高められたようだ。体験させることの重要性を感じた。 国際交流に関する項目では、評価指標を下回ったが、毎年恒例の四国大学との異文化交流会やその他研修会に個人的に参加する生徒も多く、他にも JRC 部の海外に向けての支援活動など積極的に国際理解に目を向ける生徒の割合は増えていると感じる。	
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・『新学校版環境 I S O』告知板を掲示し、活動内容の広報に努める。 ・各クラスの日直に「節電・節水、ゴミ処理、環境美化への取組」を E c o D i a r y に記録させ、意識の高揚を図る。 ・各クラスにゴミ箱 3 種類と「古紙回収箱」を設置し、ゴミ分別とゴミの減量化を呼びかける。 ・「レッツ・クリーン」環境美化活動を積極的に推進する。		①・『新学校版環境 I S O』で掲げた行動方針に基づき、様々な活動を行った。 ・各クラスで E c o D i a r y （節電・節水・ゴミの分別等の記録表）を記入し、啓発に役立てた。 ・美化委員を中心に、ゴミの分別に取り組んだ。 ・「レッツクリーン」環境美化活動を 3 回実施した。 ・電気・水道の使用量のグラフおよび環境美化や節電・節水についての啓発のためのミニポスターを掲示し、環境美化への協力を呼びかけた。			
		②・ I C T を活用して海外の文化や習慣について興味・関心を高める授業を行い主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ・海外の学校との交流行事や校外の国際理解プログラムへの参加を積極的に促し、参加に向けた適切な指導を行う。		②・教科書の補足資料として動画や H P を積極的に授業で生徒に見せることで、興味関心を高めるように努めた。 ・ A L T との英語のチームティーチングでは、A L T の出身国であるカナダの食文化や祝祭日についてゲームを通して学んだ。また、英語の構造をわかりやすく体験的に学べる授業や、生徒の英語学習への取り組みを促す授業に努めた ・県内の大学（四国大学）の留学生（5 か国）との交流会を開催し、5 名の生徒が参加した。 ・四国大学で行われた「わくわくイングリッシュセミナー」に15名参加した。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価			学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
(8) 開かれた学校 づくりと安全 教育の推進	①地域貢献活動等の活性化 や、ホームページ等を活 用した広報活動の充実を 図り、家庭や地域の連携 を深め、外部評価結果を 生かす取組を促進する。 ②地域と連携した安全・防 災教育の積極的な推進に 努め、地域防災を担う人 材を育成する。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○トルコへのボールペン寄 付活動や川島こども食堂 の運営ボランティアに参 加してもらって、活動の 輪が広がった。来年度は 生徒の皆さんの側から、 「こんなことをしたい」 というような提案をして もらいたい。生徒の皆さ んの意見を聞くことで、 ボランティアを受け入れ る側にも気づきがある。 子どもたちの意欲を共有 し、生かしていきたいと 考えている。	○ホームページについては、 各行事の記録更新に加え、 部活動の日々の活動記録も 定期的に更新できるように する。多くの教員で分担し て業務を行えるよう、ホー ムページの更新についての 研修を充実させる。 ○今年度に引き続き、地域で の防災クラブの積極的な活 動を行う。また、実際に起 こり得ることを想定した防 災訓練を行い、生徒の意識 や対応力を高める。生徒だ けでなく教職員にとって も、実践的な訓練になるよ う工夫する。
		①・ボランティア活動を通じて感動や 喜び、達成感などを習得し、心豊 かな生徒の育成をめざす。 ・学校行事や部活動等ホームペー ジ更新を速やかに行い、アクセス数 を増やす。		①・今年度は多くの行事が対面型で行われ、生 徒の活動は校内郊外とも他者との交流が可 能となった。 ・ホームページが充実しており、学校の活動 状況を理解するのに役立っていると思う割 合は、生徒が74.9%、保護者は68.7%とほ ぼ前年度と変わらない。毎日平均2000カウ ントの閲覧があり、多いときには8000カウ ントを超えた。		〈評定〉 B		
		②・防災・減災の意識が向上したと実 感できる生徒の割合は、80%以上 をめざす。		②・「防災・減災の意識が向上した」生徒の割 合は91.7%で、目標を達成できた。実際に 地震が起こったときも、教員の指示を待た ずに、ほぼ全員が素早く机の下に隠れるな ど、初動対応ができていた。		〈所見〉 ホームページについて、 学校行事の様子を実施後速 やかに発信できた、また、 生徒の関心が高い部活動に ついての更新頻度が高まっ たことでより一層本校への 関心の向上につながったと 思われる。		
		活動計画		活動計画の実施状況		防災訓練は、毎年同じよ うな訓練にならないよう に、設定を変えるなどし て、工夫して行っている。 生徒の防災意識にも良い影 響を与えることができた。		
		①・イベントに際しては積極的にボラ ンティア参加を促す。 ・ホームページ更新方法の講習会等 を開くこと、各分掌で担当を設置 することで、掲載情報の拡充に重 点を置き、最新情報の掲載や項目 の追加を適宜効果的に行う。		①・今年度は川島こども食堂の運営や募金収集 活動などのボランティア活動に積極的に参 加できた。 ・ホームページの更新では、学校行事の様子 を実施後速やかに発信した。				
		②・より実践的で生徒らが主体的にで きる防災訓練・避難訓練を実施す る。 ・地域の防災訓練への参加呼びかけ を行う。 ・防災クラブによる積極的な防災活 動を学校行事などを通して実施す る。		②・防災訓練は、今年も内容を変更した。状況 を把握し考えて行動するなど、生徒の意識 の高まりにもつながった。 ・今年度は4年ぶりに地域と合同で防災訓練 を行うことができた。地域との連携を深め ることができた。				